


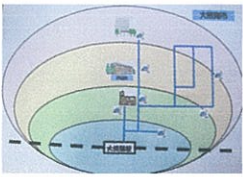
平成23年度  
モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度  
吉川市中曽根小学校 実施結果概要

(様式 3-2 : 実施結果報告書)



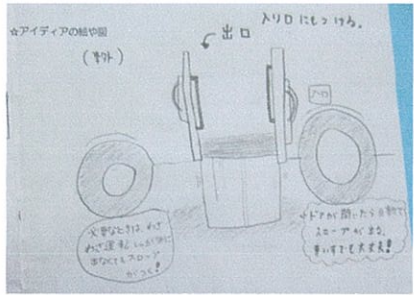
実施結果報告書

1. 学習名称： 子どもからお年寄りの方まで、みんなが住みやすいまちを考えよう					
2. テーマ： 子どもや高齢者の立場に立った交通まちづくりについて考える授業を目指して					
3. 実施教科：           社会科					
4. 関連単元：       わたしたちの生活と政治					
5. 実施単元数：       8時間					
6. 学年	第6学年	7. クラス数	1クラス	8. 生徒数	31名
9. 実施内容					
<p>本実践は、政治がわれわれの願いを実現するために行われていることがわかるよう、身近な地域（吉川市）を例に挙げ調べるものである。また、市の政治が市民の願いを実現しようとするものであることを実感できるよう、学習してわかったことを市役所の政策室に提案する活動を組み込んだ。</p> <p>児童の住む吉川市は、交通の偏りが見られそのために自動車中心の移動になっていること、学区内に宅地開発が進む地域があり今まさにまちが形成されていることが見えることから、吉川市を「交通」を切り口に見直し、「子どもからお年寄りの方まで、みんなが住みやすいまちにしよう」を課題に学習を組み立てた。</p> <p>児童が本実践で学んだ内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活で自動車中心の移動が多い。 →二酸化炭素などの温室効果ガスによる環境への負荷が大きいこと。 市内の公共交通機関（特にバス）の利用が少なく、このままでは衰退して利用できないときに利用できなくなること</li> <li>○バスなどの公共交通機関の役割とよさ</li> <li>○誰もが移動しやすいまちにするための工夫（交通バリアフリーの視点）</li> <li>○吉川市のバス路線が市役所の政策室で考えられていること。また、市民として意見を提案することが大切であること。</li> </ul>					

10、学習の流れ

時間	学習活動 (○) ・ 学習内容 (・)	授業・児童の様子 (◇)
1	<p>○ 移動の仕方を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの日常の移動手段は、クルマに依存していること。公共交通機関、特にバスは利用している人数が極端に少ないこと。</li> <li>・吉川市の交通は、鉄道路線が南端にしかなく、それ以外はバス路線があるがかたよりのあること。</li> </ul> <p>○ クルマ移動がこのまま増え続けるとどうなるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クルマの排気ガスに含まれる二酸化炭素などの温室効果ガスにより、地球温暖化や大気汚染など、環境に負荷をかけすぎてしまうこと。</li> <li>・公共交通機関の利用数が、全国的にも減少傾向にあること。このままでは、公共交通機関の衰退につながり利用できなくなる恐れがあること。</li> <li>・公共交通機関は、大量に安全に人を運べることから、環境に対してかける負荷が自家用車にくらべて少ないこと。</li> </ul>	<p>◇事前のアンケートをもとに、自分たちの日常の移動手段はクルマに依存していることに気づいた。また、バス停が近くにあるのに利用していないことにも気づいた。</p> <p>◇ワークシートの資料をもとに、問題に気づくことができた。</p>
2	<p>○ 市民カードを使って、どんな交通手段が選べるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢・免許の有無（家族も含む）・その人の健康状態・生活環境（公共交通機関からの距離）・どんな時にどこへ行くかなどが、交通手段を選ぶときの条件になること。</li> <li>・いつでも誰でもクルマを利用できるわけではないこと。</li> </ul>	<p>◇全体で20人の市民について考えてから、各班ごとに10人ずつ考えさせた。ゲーム感覚で楽しく活動していた。自分たちが思っていたよりも、クルマを移動手段に持てない市民がいることに気づいた。</p>
3	<p>○ 大熊市（架空の市）を例に、交通に不便を感じている人はどんな状況にあるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅やバス停までの距離</li> <li>・交通弱者になってしまう人たちの状況</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <p>【カードの例】</p>   </div>	<p>◇前時でわかりにくかった、家から公共交通機関までの距離の重要性に気づくことができた。また、条件が同じなら、年齢の高い人や健康状態に何らかの問題を抱えている人たちが交通弱者になってしまうことがわかった。</p>

**バスや電車などの交通が利用しやすいアイデアを考え、子どもからお年寄りの方までが住みやすい吉川になる提案をしよう。**

<p>4</p>	<p>○ バスの工夫を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に利用者を運ぶために気をつけていること。</li> <li>・利用者のことを考えてデザインされた車内・車外の工夫。</li> </ul> 	<p>◇学区内を走るバス会社の方にバスを見せて頂いた。公共交通機関にじかに触れることで、楽しく見学でき、インタビューや工夫さがしによってバスを身近なものとして捉えることができた。</p>
<p>5</p>	<p>○ 交通まちづくりの視点を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だれに対しての工夫か(視覚障害者・子ども・お年より・車いす利用者・妊婦など)</li> <li>・道路の段差や傾斜、駅構内の構造、乗り物の工夫など</li> </ul> <p>○ 吉川市について見直し、意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用したい人がいる地域にバス路線が通っていない。</li> <li>・バスの認知度が低い。利用者を増やしたい。</li> <li>・渋滞の起こる道路を何とかして、バスを定時運行できるようにしたい。</li> <li>・歩道で段差が大きすぎて、お年寄りや小さな子が歩きにくいところがある。</li> </ul>	<p>◇エコモ財団『交通バリアフリーからともに生きる社会を学ぼう!』を見ながら工夫を探す活動をした。イラスト内の人物の表情・様子から普段自分たちでは気づかない点に気づくことができた。</p>
<p>6</p>	<p>○ 交通まちづくりのアイデアを練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の内容からグループを作り、話し合いをして提案内容を考える。</li> <li>・バス路線を作成するグループ(北部・東部・新駅周辺)</li> <li>・バス路線をPRするグループ</li> <li>・バス停の工夫を考えるグループ</li> <li>・バス車両の工夫を考えるグループ</li> <li>・道路を変えるグループ</li> </ul> 	<p>【ノートの一部】</p> 
<p>7</p>	<p>○ 提案の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストを使う</li> <li>・地図を使う</li> <li>・実際にパンフレットをつくる</li> <li>・差し棒で示しながら話す</li> <li>・しっかり伝えられるよう声の大きさ・明瞭さを確認する。</li> </ul>	<p>◇グループごとに、わかりやすく提案ができるような工夫を行った。地図・イラスト・パンフレットなど提示資料を作成し、発表原稿の内容の確認も行った。</p>
<p>8</p>	<p>○ 市役所の方に、吉川市交通まちづくりの提案をする。 吉川市役所 政策室担当者1名</p>	<p>【提案の様子】</p> 